



愛知県陶磁美術館
AICHI PREFECTURAL CERAMIC MUSEUM

2021年4月15日(木)

愛知県陶磁美術館学芸課

担当 小川、宮川

電話 0561-84-7474

愛知県県民文化局文化部文化芸術課

振興第一グループ

担当 小林、草野

内線 2459・2462

ダイヤルイン 052-954-6183



愛知県陶磁美術館企画展

水滴 小さき陶芸

—大島国康コレクションを中心に—

SUITEKI – The Beauty of the Small Pottery – Around
the Adored Water Droppers of the Oshima Kuniyasu Collection

会期：2021年6月26日(土)～9月26日(日)

「水滴」は硯すいてきに水をさす時すずりに使う、小さなうつわです。高度な制作技術に支えられた実用品である一方、その造形には地域や時代を映した精神性と遊び心が溢れています。

2020年度、名古屋市在住の大島国康氏おおしまくにやすから愛知県へ「陶磁水滴コレクション」計1,062点が寄贈されました。大島氏の陶磁水滴コレクションは中世の古瀬戸から近現代にわたり、個人による水滴コレクションとしては日本屈指の規模と内容となっています。

本展では、貴重なコレクションから約300点を選び、陶磁製水滴の世界を概観するとともに、香合こうごう、茶入ちやいれなど当館の小型古陶磁を併せて展示紹介します。



あかえさいびょうかもんすいちゆうがなすいてき
赤絵細描花文水注形水滴

みどころ

- ◆日本屈指の陶磁水滴コレクションを初公開。
- ◆鎌倉時代から平成年間にかけての様々な水滴が一堂に集まる。
- ◆“用の美”が凝縮された、小さな陶芸品の技と美が鑑賞できる。

1 会 期 2021年6月26日(土)から9月26日(日)まで
休館日：毎週月曜日
ただし8月9日(月・振休)は開館し、10日(火)は休館
9月20日(月・祝)は開館し、21日(火)は休館

2 開館時間 2021年6月26日(土)
午前11時から午後4時30分まで(入館は午後4時まで)
2021年6月27日(日)から6月30日(水)まで
午前9時30分から午後4時30分まで(入館は午後4時まで)
2021年7月1日(木)から9月26日(日)まで
午前9時30分から午後5時まで(入館は午後4時30分まで)

3 会 場 愛知県陶磁美術館 本館1階 第1展示室
(瀬戸市南山口町234番地 電話：0561-84-7474(代表))

4 主な展示作品 別紙のとおり

5 観 覧 料

一般 600円(団体480円)、高大生 500円(団体400円) 中学生以下無料

* ()内は20名以上の団体料金

*本展の当日観覧券で、同時開催テーマ展及び常設展も観覧いただけます。

6 割引制度

身体等に障がいのある方及び付添者(手帳提示)/リニモ「陶磁資料館南」駅等に設置の割引ちらし、リニモ又は名古屋市交通局の「一日乗車券」、ちらし等の割引引換券、JAF会員証等を持参された方/同一展リピート割など、各種割引制度があります。

詳細は県陶磁美術館の公式Webページで御確認又はお問合せください。

(https://www.pref.aichi.jp/touji/use_guidance/)

※各割引制度の併用はできません。

7 関連事業 (各事業の詳細は公式Webページで御案内します)

(1) 記念講座・ワークショップ「水と硯」

水滴で水を注ぐ先である硯について、硯工芸作家が解説します。

また、いろいろな種類の石と墨で試し擦りする体験を行います。

日 時：8月22日(日) 午後1時30分から午後3時30分まで

会 場：陶芸館

講 師：硯刻家 けんこくか 五代名倉鳳山氏 なぐらほうざん (新城市指定無形文化財保持者、日本工芸会理事)

*事前申込制、定員20名

参加料：大人300円、中学生以下150円。

(2) 講座「陶磁水滴コレクション—大島コレクションの世界」

展示第一部「書の友、水滴」について、担当学芸員が解説します。

日 時：7月4日(日) 午後1時30分から午後3時まで

会 場：本館地下1階講堂

講 師：小川裕紀おがわひろき（当館主任学芸員）

*聴講無料、事前申込不要。定員100名

(3) 講座「やきものマイクロコスム—愛知県陶磁美術館の小さなやきもの宇宙」

展示第二部「MICROCOSMS」マイクロコスムについて、担当学芸員が解説します。

日 時：9月5日(日) 午後1時30分から午後3時まで

会 場：本館地下1階講堂

講 師：宮川菜々子みやがわ ななこ（当館学芸員）

*聴講無料、事前申込不要。定員100名

(4) ワークショップ「古瀬戸水滴の鑑賞と制作」

古瀬戸水滴の陶片を鑑賞し、陶製水滴を作ります。

日 時：7月11日(日) 午後1時30分から午後3時30分まで

会 場：陶芸館

講 師：当館陶芸指導員及び学芸員

*事前申込制、定員20名

参加料：大人950円、中学生以下800円。

(5) ワークショップ「平面からDOGU—たち上がれ小さき人々」

ポートレート写真や絵画など自分のアイコンとなるような画像をもとに、土偶を作ります。

日 時：8月1日(日) 午後1時30分から午後3時30分まで

会 場：陶芸館

講 師：当館陶芸指導員及び学芸員

*事前申込制、定員20名

参加料：大人950円、中学生以下800円。

(1)及び(4)(5)の申込方法の詳細は、5月下旬ごろに県陶磁美術館の公式 Web ページ (https://www.pref.aichi.jp/touji/exhibition/2021/k_suiteki/index.html) で発表する予定です。

8 主 催 愛知県陶磁美術館、中日新聞社

9 後 援 愛知県教育委員会、愛知高速交通株式会社

10 問合せ先

愛知県陶磁美術館

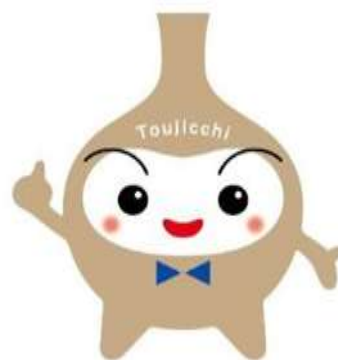
〒489-0965 愛知県瀬戸市南山口町 234 番地

電話：0561-84-7474（代表）

ファクシミリ：0561-84-4932

メールアドレス：touji@pref.aichi.lg.jp

水滴は、時代を映す文房具。
手のひらサイズ的美と技を感じよう！



当館マスコットキャラクター
とうじっち

本展と同時期に、隣の第2展示室では、テーマ展「愛知の新たな宝—近年収蔵の重要古陶磁—」を開催します。（本日記者発表）

[次回予告]

2021年10月9日（土）からは、特別展「華*花—四季の花と中国陶磁史—」を開催します。



会期：2021年10月9日（土）～12月12日（日）

休館日：毎週月曜日

概要：「中華（中国）の美しい花」という意味を込めた本展では、四季を彩る「牡丹」「蓮」「菊」「梅」に焦点を当て、南北朝時代から清時代の「三彩」「青磁」「青花」「五彩」など多種多様な中国陶磁を紹介します。

*展覧会やイベントの詳細については、後日別途に記者発表いたします。

五彩蓮花唐草文皿（重要美術品）

明時代 景德鎮窯 MOA 美術館蔵

中国陶磁の名品から
色彩豊かな花の物語
を紹介するよ！



[主な展示作品]

第 I 部：書の友、水滴

別紙

何が見られる？⇒鎌倉時代から平成年間にかけての水滴を一望できます。

主な展示作品

第一章 古陶の名品を見る



【画像 NO. 1】

かいゆうれんべんもんすいてき
灰釉蓮弁文水滴

瀬戸 14 世紀
胴径 5.7cm

中世瀬戸窯の名品

- ・日本で陶製水滴の本格的な生産は、鎌倉時代に瀬戸窯で始まった。
- ・本作品は、端正な器形に簡素な装飾を巡らせ、釉薬がよく発色している。水切れもよく、造形美と機能美を兼ね備えており、小形品ながらも、中世瀬戸窯における名品と評しうる作品である。

第二章 時代の造形を見る



【画像 NO. 2】

いろえ かちようずすいてき
色絵花鳥図水滴

有田 十四代酒井田柿右衛門 1998 年
胴径 5.6cm

人間国宝の特注品

- ・国指定の重要無形文化財保持者は、一般に“人間国宝”と呼ばれる。有田焼の柿右衛門様式については、「柿右衛門(濁手)」の技術保持団体と、「色絵磁器」の技術保持者である十四代の酒井田柿右衛門(1934-2013)が認定されている。
- ・本作品は、1998 年 7 月にコレクターが直接依頼して制作された作品である。

第三章 注ぎの造形を見る



【画像 NO. 3】

あかえ さいびよう かもんすいちゆうがたすいてき
赤絵細描花文水注形水滴

九谷 見附正康 2010 年頃
高さ 5.9cm

現代赤絵細描の第一人者

- ・見附正康(1975-)は、九谷焼の伝統技法「赤絵細描」を現代的な意匠で展開する、気鋭の陶芸家である。
- ・コレクターは、見附が二十代の頃に見出して交流を続けている。本作品は、水注という曲面の多い器形に緻密な文様が描き込まれた、華麗で格調の高い作品である。

主な展示作品（続き）

第四章 形象の意匠を見る



【画像 NO. 4】

りよくゆうかえるつきつつがたすいてき
緑釉蛙付筒形水滴

中国 18-19 世紀

高さ 6.6cm

虫除けの文房具？

- 筒形水滴の上面に、写実的な蛙像が付けられている。蛙は「蟾蜍」(せんじょ)と呼ばれる種類で、日本では蟪(ヒキガエル)や蝦蟇(ガマガエル)などが相当する。「気」で小虫を引き寄せて食べ、背中の疣(いぼ)などから毒液を出すと思われており、蛙形水滴は辟邪、虫除けの具としても受容されたものと思われる。

第五章 菟集しゅうしゅうの精神を見る



【画像 NO. 5】

かいゆうこく か うずまきもんすいてき
灰釉刻花渦巻文水滴

瀬戸 加藤幸次 1984 年

胴径 6.3cm

現代瀬戸灰釉陶芸の水滴

- 加藤幸次(1948-)は、1991年に瀬戸の名陶家31世加藤唐三郎を襲名。2008年に瀬戸市指定無形文化財「陶芸 御深井」に認定されている。
- 本作品は、1984年9月にコレクターが作家個展で入手した作品で、コレクションでは菟集の初期に属する。コレクターが地元作家を支援する志を見て取ることができる。

第Ⅱ部：MICROCOSMS（マイクロコズム）—小さなやきもの、大きな宇宙—

何が見られる？⇒香り、飲食、祈りで用いられた、小さな陶芸品を紹介します。

主な展示作品

第一章 香—香りの物語を聞く—



【画像 NO. 6】

じゅろうじんこうごう
寿老人香合

とよらく とよすけ
豊楽 豊助 18-19 世紀

高さ 5.6 cm 胴径 4.5×5.7cm 個人蔵

微笑を浮かべた小さな神様

- ・瓢箪に腰掛けた寿老人が扇舟に乗る、丁寧な作品である。黄色い釉薬が鮮やかに発色し、明るいおめでたい雰囲気醸している。
- ・香合を掌に乗せてのぞき込めば、斜め前方を見上げる小さな神様が、こちらへ微笑みかけてくるようだ。

第二章 味—味わうための器を見る—



【画像 NO. 7】

ちやいれ めい きせん
茶入 銘 喜撰

美濃 17 世紀

高さ 10.8 cm 口径 2.8-3.0cm

我が庵は 都のたつみ しかぞ住む？

- ・江戸時代のはじめに現在の岐阜県で焼かれた織部の茶入。
- ・茶入にはヘラ目、筆描き模様に加え、釉なだれなどが豊かな景色を織りなす一方、全体に落ち着いた雰囲気がある。
- ・六歌仙のうち百人一首の「我が庵は」の和歌で有名な喜撰法師にちなんだ銘か。

第三章 祈—祈りを込めた小さなやきもの—



【画像 NO. 8】

さんさいくもつ
三彩供物

中国 16-17 世紀

幅 27.0 cm 高さ 22.0 cm

現実世界を縮小した祈りの造形

- ・祖神への捧げ物で、卓上には香炉・豚の頭・鴨・桃・銀錠・反物などが並ぶ。
- ・三色の明るい三彩釉や、分析的な写実性は明時代のやきものの特徴とされる。
- ・中国では、現実世界を縮小したミニチュアのやきものを副葬する風習が古来よりあった。